

組み体操事故3割減少 18年度、兵庫県内公立小中



組み体操の練習に取り組む小学生＝神戸市内

拡大

兵庫県教育委員会は7日、神戸を除く県内の公立小中学校で、2018年度に実施された運動会・体育大会（練習を含む）の組み体操で、計285件（うち重傷16件）の事故があったと発表した。一方、神戸市教育委員会によると、同市立小中学校の事故は81件（同30件）だった。合わせると、県内では17年度から件数は3割以上減り、重傷も6割程度になった。

大阪経済大の西山豊教授（数学）の調査では、神戸市分を含む17年度の兵庫県の組み体操事故は3年連続で全国最多に上っている。

重傷事故は骨折やねんざなどで、市町別では伊丹市＝3件▽姫路、加古川、西宮、川西市＝2件▽尼崎、宍粟、丹波、たつの市、多可町＝1件だった。種目別では電柱やサボテンでの骨折が目立ち、ピラミッドは1件、タワーも3件あった。

安全のため日本スポーツ振興センターは、タワーは小中とも3段以内、ピラミッドは小学校3段、中学校で4段以内という基準を示すが、県教委によると、タワーは小中とも5段、ピラミッドは小学校で7段、中学校で9段を実施している学校があるという。担当者は「大型の組み体操にこだわる学校に、安全指導を徹底する」としている。

神戸市教委によると、市立小中の事故件数は小学校54件（前年度77件）中学校27件（同40件）。うち、重傷事故は小学校22件（同27件）、中学校8件（同11件）。完成後に技を崩す際にけがが多かったという。（井上 駿）

種目	小学校	中学校
ピラミッド	21(0)	33(1)
タワー	19(1)	24(2)
補助倒立	35(0)	3(0)
電柱	3(0)	10(3)
サボテン	33(3)	6(0)
飛行機	2(0)	5(1)
人間起こし	6(0)	2(0)
その他	50(1)	33(4)
計	169(5)	116(11)

神戸市立分を除く
(かっこ内は重傷事故の件数)

県内の組み体操事故

拡大